

## はじめに

瀬戸内圏は古くから海上交通の要衝の地であり、日本文化の源ともいえます。香川大学は、「こうした瀬戸内圏の中核都市として発展してきた四国の高松にあって、地域の「知の総合拠点」の形成を使命としています。本学では古くから、瀬戸内海の赤潮研究、ため池の研究、産業廃棄物対策、遠隔診断などの優れた地域に根ざした研究が続けられてきました。そこで、瀬戸内圏の諸課題を解決するべく調査研究を行うとともに、地域の財産である瀬戸内圏が育んできたその風土や豊かな環境を保全し、継承させ、発展させるために、平成20年度から学長裁量経費による研究プロジェクトが始まり、「瀬戸内圏研究センター」が平成21年3月1日に設立されました。当該センターは瀬戸内圏研究プロジェクト(海グループ:干潟を含めた浅海域の生態系研究、文化・観光・歴史グループ:瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造、医療グループ:瀬戸内圏における地域連携パスと生涯健康カルテ(EHR)ネットワーク構想)の研究推進支援、行政や企業等との協議会および活動団体や地域住民等の意見からの新たな課題の発掘、それらを反映させるための施策の検討、セミナーやシンポジウム等による研究成果の公開、行政や企業等との受託研究や共同研究の推進、瀬戸内圏研究に関する情報の収集とデータベース化ならびにそれらの発信などを遂行し、**地域への貢献を第一の目標**に掲げて事業を展開しています。

本報告書では、研究開始から3-4年を経過した平成22-23年度までの成果とセンターの活動について報告致します。この間における海、文化・観光・歴史、医療の各グループの**地域貢献に関係する主要な成果**は以下のように整理できます。

海グループ:ノリの色落ち対策の必要性を香川県知事に進言し、環境にやさしい栄養添加技術の開発を実施、この技術を活用して香川ノリの生産安定に向けた調査研究を展開中です。一方、志度湾のカキ大量斃死原因究明調査を開始し、貝リングルを使用し、安心して安全なカキ養殖の生産の成立に向けて努力中です。

文化・観光・歴史グループ:島の生活を尊重して、島の素材を生かし、それを興す人たちと島民とが根気よく交流して、経済を発展させることが大事であるとする離島の島づくりに向けた提言をまとめました。また、瀬戸内国際芸術祭のあり方に関する報告書を作成すると共に、四国巡礼の世界遺産に向けての研究も展開しています。

医療グループ:県と一体となって、香川医療福祉総合特区を国に認定させることができました。総合特区の今後の展開には諸事項の規制緩和が必要であり、これらのハードルを越えながら、離島や山間部への遠隔医療の早期実現に努力しています。

今後とも瀬戸内圏研究センターへの暖かい御支援をよろしくお願い致します。

瀬戸内圏研究センター長  
本城 凡夫